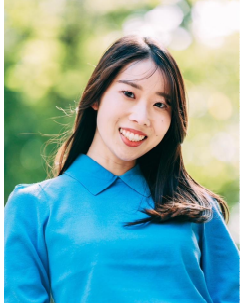


「東京大学総長賞」受賞者・団体紹介

【学業】

※上から賞状・記念品の授与順となる

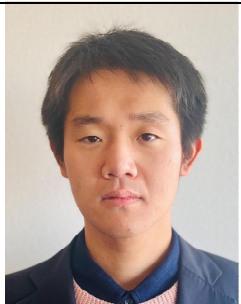
○総長大賞

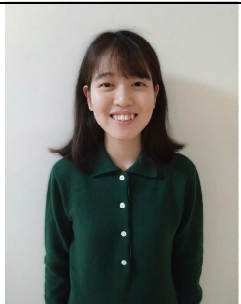
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 315 632 349">吉本 愛梨</td><td data-bbox="632 315 1402 349">薬学系研究科・博士4年</td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 349 1402 616"> 【意図的な心拍数制御を可能とする神経回路メカニズムの解明】 体には、自分の意志で動かせる部位とそうでない部位がある。手足を自在に動かすことはできても心臓や胃腸を動かすことはできない。しかし特殊な訓練を積み重ねればその垣根を跳び越えることができる。吉本氏は、ラットを用いてバイオフィードバックの動物モデルを確立することで、意志による心拍数コントロールを可能とする神経回路を明らかにした。氏の成果は、Science誌に掲載された他、日本学術振興会育志賞の受賞を含め高い評価を受けた。 </td></tr> </table>	吉本 愛梨	薬学系研究科・博士4年	【意図的な心拍数制御を可能とする神経回路メカニズムの解明】 体には、自分の意志で動かせる部位とそうでない部位がある。手足を自在に動かすことはできても心臓や胃腸を動かすことはできない。しかし特殊な訓練を積み重ねればその垣根を跳び越えることができる。吉本氏は、ラットを用いてバイオフィードバックの動物モデルを確立することで、意志による心拍数コントロールを可能とする神経回路を明らかにした。氏の成果は、Science誌に掲載された他、日本学術振興会育志賞の受賞を含め高い評価を受けた。	
吉本 愛梨	薬学系研究科・博士4年				
【意図的な心拍数制御を可能とする神経回路メカニズムの解明】 体には、自分の意志で動かせる部位とそうでない部位がある。手足を自在に動かすことはできても心臓や胃腸を動かすことはできない。しかし特殊な訓練を積み重ねればその垣根を跳び越えることができる。吉本氏は、ラットを用いてバイオフィードバックの動物モデルを確立することで、意志による心拍数コントロールを可能とする神経回路を明らかにした。氏の成果は、Science誌に掲載された他、日本学術振興会育志賞の受賞を含め高い評価を受けた。					

○総長賞

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 698 632 732">浅野 皓生</td><td data-bbox="632 698 1402 732">法学部・4年</td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 732 1402 999"> 【学業成績優秀・学修成果の社会発信】 実定法学・基礎法学・政治学を幅広く学習する中で、法や政治の内在的限界について問題意識を抱き、かかるテーマを軸とした創作活動を開始。2022年10月、「殺人犯」で東大生ミステリコンテスト大賞を受賞。「テミスの逡巡」と改題の上、2023年1月刊行のミステリ・アンソロジー『東大に名探偵はいない』に収録。2024年4月、「責」で第44回横溝正史ミステリ&ホラー大賞優秀賞受賞。『責任』と改題の上、同年9月に刊行。 </td></tr> </table>	浅野 皓生	法学部・4年	【学業成績優秀・学修成果の社会発信】 実定法学・基礎法学・政治学を幅広く学習する中で、法や政治の内在的限界について問題意識を抱き、かかるテーマを軸とした創作活動を開始。2022年10月、「殺人犯」で東大生ミステリコンテスト大賞を受賞。「テミスの逡巡」と改題の上、2023年1月刊行のミステリ・アンソロジー『東大に名探偵はいない』に収録。2024年4月、「責」で第44回横溝正史ミステリ&ホラー大賞優秀賞受賞。『責任』と改題の上、同年9月に刊行。	
浅野 皓生	法学部・4年				
【学業成績優秀・学修成果の社会発信】 実定法学・基礎法学・政治学を幅広く学習する中で、法や政治の内在的限界について問題意識を抱き、かかるテーマを軸とした創作活動を開始。2022年10月、「殺人犯」で東大生ミステリコンテスト大賞を受賞。「テミスの逡巡」と改題の上、2023年1月刊行のミステリ・アンソロジー『東大に名探偵はいない』に収録。2024年4月、「責」で第44回横溝正史ミステリ&ホラー大賞優秀賞受賞。『責任』と改題の上、同年9月に刊行。					

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1032 632 1066">大野 歩実</td><td data-bbox="632 1032 1402 1066">理学部・4年</td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 1066 1402 1335"> 【サイバーセキュリティ分野における国際的活動と楕円曲線上点加算の高速計算方式の研究】 サイバーセキュリティの国際大会Kunoichi Cyber Gameに日本チームのキャプテンとして出場し、世界最大級の女性とノンバイナリー技術者の祭典Grace Hopper Celebrationに大学を代表して参加した。また、勉強会の開催や研究科での発表を通じて近い世代の女性に同分野への参加を促した。卒業研究ではCPUやGPUに代わる新たな計算デバイスでの暗号計算の高速処理方法を開発した。 </td></tr> </table>	大野 歩実	理学部・4年	【サイバーセキュリティ分野における国際的活動と楕円曲線上点加算の高速計算方式の研究】 サイバーセキュリティの国際大会Kunoichi Cyber Gameに日本チームのキャプテンとして出場し、世界最大級の女性とノンバイナリー技術者の祭典Grace Hopper Celebrationに大学を代表して参加した。また、勉強会の開催や研究科での発表を通じて近い世代の女性に同分野への参加を促した。卒業研究ではCPUやGPUに代わる新たな計算デバイスでの暗号計算の高速処理方法を開発した。	
大野 歩実	理学部・4年				
【サイバーセキュリティ分野における国際的活動と楕円曲線上点加算の高速計算方式の研究】 サイバーセキュリティの国際大会Kunoichi Cyber Gameに日本チームのキャプテンとして出場し、世界最大級の女性とノンバイナリー技術者の祭典Grace Hopper Celebrationに大学を代表して参加した。また、勉強会の開催や研究科での発表を通じて近い世代の女性に同分野への参加を促した。卒業研究ではCPUやGPUに代わる新たな計算デバイスでの暗号計算の高速処理方法を開発した。					

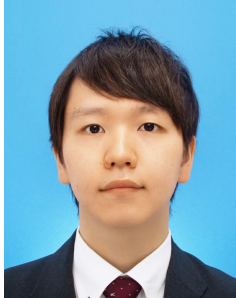
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1366 632 1400">主藤 裕太郎</td><td data-bbox="632 1366 1402 1400">理学系研究科・修士2年</td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 1400 1402 1668"> 【Prime editor によるpegRNA 依存性逆転写の構造基盤】 プライム編集は、ゲノムDNAを切断せずに正確に書き換える技術として、遺伝子治療や育種分野への応用が期待されている。主藤氏は、プライム編集を担う人工設計されたタンパク質Prime editorがDNAに作用する過程である「pegRNA依存性逆転写」の分子基盤を、生化学的および構造生物学的観点から解明した。本研究の成果は、ゲノム編集の効率と正確性を向上させた次世代プライム編集技術の開発に大きく貢献すると期待される。 </td></tr> </table>	主藤 裕太郎	理学系研究科・修士2年	【Prime editor によるpegRNA 依存性逆転写の構造基盤】 プライム編集は、ゲノムDNAを切断せずに正確に書き換える技術として、遺伝子治療や育種分野への応用が期待されている。主藤氏は、プライム編集を担う人工設計されたタンパク質Prime editorがDNAに作用する過程である「pegRNA依存性逆転写」の分子基盤を、生化学的および構造生物学的観点から解明した。本研究の成果は、ゲノム編集の効率と正確性を向上させた次世代プライム編集技術の開発に大きく貢献すると期待される。	
主藤 裕太郎	理学系研究科・修士2年				
【Prime editor によるpegRNA 依存性逆転写の構造基盤】 プライム編集は、ゲノムDNAを切断せずに正確に書き換える技術として、遺伝子治療や育種分野への応用が期待されている。主藤氏は、プライム編集を担う人工設計されたタンパク質Prime editorがDNAに作用する過程である「pegRNA依存性逆転写」の分子基盤を、生化学的および構造生物学的観点から解明した。本研究の成果は、ゲノム編集の効率と正確性を向上させた次世代プライム編集技術の開発に大きく貢献すると期待される。					

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="416 1702 632 1736">小玉 智恵</td><td data-bbox="632 1702 1402 1736">新領域創成科学研究科・修士2年</td></tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 1736 1402 2004"> 【ヒト培養細胞の貪食能向上法の開発による細胞内共生メカニズムの解明】 細胞内共生とは、異種生物が細胞内に取り込まれ、維持される現象のことであり、身近な例では、真核細胞に存在するミトコンドリアや葉緑体などの細胞内小器官が挙げられる。本研究では、細胞本来の貪食能力を強化し、外部物質を効率的に取り込ませる技術を開発することで、実際の進化過程で生じた細胞内共生のプロセスをin vitroで再現することを目指した。 </td></tr> </table>	小玉 智恵	新領域創成科学研究科・修士2年	【ヒト培養細胞の貪食能向上法の開発による細胞内共生メカニズムの解明】 細胞内共生とは、異種生物が細胞内に取り込まれ、維持される現象のことであり、身近な例では、真核細胞に存在するミトコンドリアや葉緑体などの細胞内小器官が挙げられる。本研究では、細胞本来の貪食能力を強化し、外部物質を効率的に取り込ませる技術を開発することで、実際の進化過程で生じた細胞内共生のプロセスをin vitroで再現することを目指した。	
小玉 智恵	新領域創成科学研究科・修士2年				
【ヒト培養細胞の貪食能向上法の開発による細胞内共生メカニズムの解明】 細胞内共生とは、異種生物が細胞内に取り込まれ、維持される現象のことであり、身近な例では、真核細胞に存在するミトコンドリアや葉緑体などの細胞内小器官が挙げられる。本研究では、細胞本来の貪食能力を強化し、外部物質を効率的に取り込ませる技術を開発することで、実際の進化過程で生じた細胞内共生のプロセスをin vitroで再現することを目指した。					

【学業】

○総長賞

	常 瀨 琳	法学政治学研究科・博士課程(2022年3月修了)
【「道理」と「風俗」―水戸学と文明論の十九世紀】 西洋との遭遇により激しく揺らいだ十九世紀の日本を舞台にして、日本の「国体」を強調したことで知られる水戸学者と、西洋文明の鼓吹者として知られる文明論者という、一見大きく異なる思想家たちの思索と議論を、宇内に通ずる「道理」と各地域の特殊な「風俗」という当時の頻出概念に注目して関連づけながら検討した。これにより、複数の思想水脈が絡み合いながら展開した十九世紀の日本思想史を新たな視座から描き出した。		

	榊原 雅也	理学系研究科・博士3年
【ナノサイズ効果を利用した相転移現象の原子スケール機構研究】 食塩が結晶化する、あるいは氷が溶けるなどの過程は相転移とよばれ、材料創成やその機能発現で基礎的役割を担っている。榊原氏は、無機固体試料をナノサイズ化することで温和な条件での相転移その場観察を実現し、その原子レベル機構の解明に取り組んだ。一連の研究は相転移の理解深化・制御実現に資する成果として複数の国内外学会で発表・学術誌に出版され、世界的に高い評価を受けた。		

【課外活動・社会活動等】

○総長大賞

	東京大学ピアサポートルーム 【「支え合いのキャンパス」をめざした取り組み】 東京大学ピアサポートルームは、本学学生が「満ち足りた学生生活を送ることを大切に」との理念のもと、世界の誰もが来なくなる「支え合いのキャンパス」の実現に向けて取り組みを続けており、10年目を迎える。この間に20種以上のピアサポート活動が行われ、延べ10,000名以上の本学学生が利用した。こうした活動は、本学学生の社会福祉・国際交流に多大な貢献をしたものであり、他の学生の範となる功績が顕著である。
--	---

○総長賞

	FS 能登町支援チーム 代表：志賀 智寛 【能登半島地震における能登町での現地支援活動および復興人材育成】 石川県能登町でのFS（大学が実施する地域協働プログラム）の活動に参加した学生有志で能登半島地震発生後にチームを立ち上げ、自治体の復興事業への協力、祭礼への参加など、様々な支援活動を実施した。また、創設した新プログラムやボランティアツアーによって100人以上の学生を能登に動員し、若い世代の関係人口を多数輩出した。今後も能登と学生の繋がりを生み出すことによる、創造的復興・復興人材育成への貢献が期待される。
---	--

	秋吉 拓真 古川 大晃	工学部・3年 総合文化研究科・博士4年
【箱根駅伝で41年ぶり東大タスキリレー】 両名は予選会での好成績により学生連合チームに選出され、8区と9区で襷を繋いだ。東大生同士の襷リレーは、第60回大会で東大がチームとして出場した時以来、41年振りのことである。さらに、秋吉は区間トップに迫る快走をみせ、古川は受け取った襷を繰り上げさせずに最終走者まで届けた。また、古川と八田教授との給水は大きな話題を呼んだ。2人の活躍は大きな反響を呼び、本学のスポーツ面での名誉を大に高めた。		